

特別支援教育

人との関わりが苦手なA児童の行動に参加できる手立てについて

長柄 小 奥田 千博

小学生抽出児Aから、2年間の合同学習会を通して人と上手く関われない児童が集団参加できる手立てを研究する。

特別活動・学級経営

自信をもつてより積極的に行動できる児童の育成

「1日の反省」の工夫と1年生との交流を通して

緑ヶ丘小 北田 知也

「1日の反省」や1年生との交流を通して、自信をもち、積極的に行動できる児童の育成をめざした実践報告。

生徒指導

よりよい学級をめざし、一人ひとりが考え、行動できる児童の育成

いじめゼロ集会を通して

緑ヶ丘小 杉谷 健作

いじめについて全校アンケートをとり、その結果をもとに学校の現状を分析し、児童会を中心に行つたいじめゼロ集会の実践報告。

未来に夢を描き、意欲的に

学校図書館教育

時代の変革に柔軟に対応しながら創造する、これからの中学校事務。

日吉小 高山 優子

チーム学校の一員として、セントラーラーとしての視点からととの連携の在り方を考える。

一宮中 磯崎 豊

教育予算改善プロジェクトを通した教育環境整備の実践。

給食センターにおける食育の推進

一宮中 藍 直樹

(1) 整った教室環境作りと充実した清掃活動へのとりくみ(2) 映像効果を取り入れた「見える生徒指導」の実践(3) 夢の実現アンケートの実施

キャリア教育

地域と連携したキャリア教育のあり方について

本納中 君塚 安弘

本校では毎年、本校に縁の

ある方を講師として迎え、その方の半生や職業観についてお話しを伺っている。本研究では、子どもたちが講話を通してどのような職業観を得たのかを調査する。

情報・視聴覚教育

プログラミング教育の実践
—古典的な迷路とスクラップ

チを使って—

豊田小 鶴岡佐喜夫

古典的な迷路とスクラップを使つたプログラミング教育

の実践。

学校図書館教育

心を育て自ら学ぶ場としての学校図書館の在り方

—授業における学校司書との連携を通して—

東郷小 吉野 みや

学校図書館の機能を、読書センターラーとしての視点からととの連携の在り方を考える。

一いじめゼロ集会を通して

よりよい学級をめざし、一人ひとりが考え、行動できる児童の育成

—いじめゼロ集会を通して

よりよい学級をめざし、一人ひとりが考え、行動できる児童の育成

環境教育
—サケの飼育と放流活動を通して—

睦沢中 川嶋 里美

家庭・地域・学校・行政が連携し、サケの稚魚飼育・放流・環境整備・環境調査を通しての環境教育を実践した。

豊田小 鶴岡佐喜夫

安全意識を高め、交通事故を防ごうとする児童の育成

安全部会での指導体制整備と安全集会での指導を通じて—

高根小 石井 春樹

交通安全教育の充実へ向けた協力体制づくりと安全集会を要とした指導実践報告。

八積小 薦田 育栄

生きる力を育てる統計教育

身に付け、主体的に生きる児童の育成をめざして—

長柄小 中田 早紀

統計的な見方・考え方を身につけ、主体的に生きる児童の育成をめざして—

中の島小 南波 玲子

統計的な手法を生かした活動計画を作り、統計的の生かし方を発達段階に応じて指導した教科等の学習の実践報告。

幼年期の教育

八積小 薦田 育栄

自分によさや成長に気付き、生き生きと活動できる児童の育成をめざして—

中の島小 中村 智子

地域の人々や園児との交流を通じて、自分のよさや成長に気付き、生き生きと活動できる児童の育成をめざして—

中の島小 中村 久仁隼

支え合い、共に生きる喜びをもつた児童生徒を育てるにはどうしたらよいか。

—言葉づかいを見直すことから始める人権教育—

東浪見小 大塚 宏幸

集会活動や掲示物を活用して、互いを尊重する態度の育成をめざした実践報告。

中原中 井桁絵美子

セントラル栄養士として、小中貫された食育を探り、小中学校と給食センターの連携をめざした実践報告。

ツク教育の体験的な活動を充実させることで、自ら課題意識をもち、よりよく課題を解決していくという態度を養う実践報告。

民主的学校づくり

すすんで学び合いのできるミニ学習会を通して他の教員とのつながりを深め、分

会力向上をめざした実践報告。

白潟小 田中 大空

ミニ学習会を通して他の教員とのつながりを深め、分

会力向上をめざした実践報告。

白潟小 田中 大空

一人ひとりが自分らしさを大切にできる児童の育成

—教職員と児童の「多様な性」の理解を通して—

長柄小 中田 早紀

分らしさを大切にする実践報告。

長柄小 御園 貴子

児童の実態に応じた「多様な性」を学ぶ授業を通して自

由地との学びのつながりを通じて—

中の島小 南波 玲子

—地域との学びのつながりを通じて—

中の島小 中村 智子

地域の人々や園児との交流を通じて、自分のよさや成長に気付き、生き生きと活動できる児童の育成をめざして—

中の島小 中村 久仁隼

—言葉づかいを見直すことから始める人権教育—

東浪見小 大塚 宏幸

保護者にとっての支援とは保育所でできること

中島保育所 錦織 美緒

園内研修を通して話し合い個別の週案を立て実践した。

ツク教育の体験的な活動を充実させることで、自ら課題意識をもち、よりよく課題を解決していくという態度を養う実践報告。

『初心と笑いを忘れずに』

長岡小学校 中根 聖

「楽しく生きる。」この言葉が私の心に響きました。普段、児童に接する中で私も同じようなことを話しています。「楽しく生きる。」ということは、いろいろなことにチャレンジすること、目標を持って頑張ること、その中で失敗してもよくよせずに、前向きに考えることが大切だと思います。林家木久藏さんの講演を聞いて、何気ない日々の生活にも喜びを見つけ、楽しみながら児童に接していきたいと思いました。

『笑いの効能』

東浪見小学校 佐藤 雅子

「お笑いが病気を治す。」リウマチの患者に落語を聞かせたところ、ほとんどの患者の痛みが和らいだそうです。お笑い番組を見ると嫌なことを忘れます。ですが、体の痛みまで治すとは知りませんでした。「自分が楽しんでお客様を喜ばせる。」教員のほとんどの人が、仕事に追われて自分が楽しむことを忘れていると思います。お笑いを見て大きな声で笑い、次の日からまた元気に子どもたちに向か合っていこうと思いました。

『ハートをつかむ』

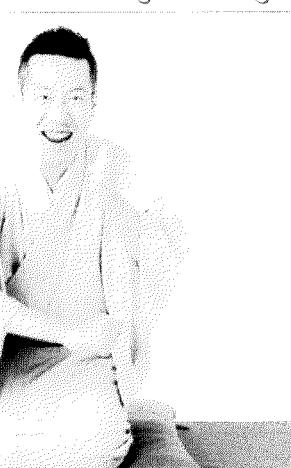
南白亜小学校 田中 昭成

「初対面の人の心を掴むのは、難しい」という言葉に、心から共感させられました。そして、自分は毎日会っているクラスの子どもたちの心をきちんとつかめているのか考える機会となりました。講演中に知らず知らずのうちに何度も木久藏さんの作る世界に引き込まれる事がありました。また、大声で笑うときもありました。学校では、自分が前に立つて授業をしています。授業中の子どもたちはこのように授業に集中してくれているのか心配になりました。自分もこんな風に子どもたちを引きつける事が出来るようになりたいと思いました。

第69次 長生教育研究会 教育講演会

『木久藏流 笑うが一番』

—講師— 林家 木久藏 氏



『笑いの大切さと奥深さを実感』

睦沢中学校 仲野 江美

幕が上がり、入場した木久藏師匠が話した最初の一言から、会場は笑い声でいっぱいになりました。落語の世界では、大勢のお客様のハートをつかむために必要な「気遣い」と「気働き」を学ぶため、全ての時間を師匠に捧げる修行を5年間も行うと聞き、驚きました。そして落語家が大切にする相手を思う気持ちちは私たち教師にも必要な大事な要素だと再確認しました。思い切り笑って元気になり、背中も押してもらえた素敵なお時間でした。